

新型コロナウイルス感染症に関する 差別や偏見は許されない！



昨年7月に施行された「岐阜県感染症対策基本条例」の第14条に「何人も、感染症の患者、医療従事者等に対し、感染症のり患、そのおそれ等を理由として、不当な差別的取扱い又は誹謗中傷をしてはならない。」と規定され、同9月に「ストップ『コロナ・ハラスメント』宣言<岐阜県知事及び県内42市町村長共同宣言>」が出されました。

県内の学校においては、「ひびきあい活動」等の中で、児童生徒の発達の段階に応じて、新型コロナウイルス感染症に関連する差別や偏見、いじめにつながる言動が生じないようにする取組が実施されました。

今後も、新型コロナウイルス感染症を正しく理解し、自他の人権を尊重する「行動力」を高めていく実践を積み重ねていくことが重要です。

「差別や偏見、いじめを防ぐ」指導のポイント

■正しい知識を身に付け、正しく恐れる

差別や偏見は、未知のウイルスへの恐れから生まれる。これまで明らかになった新型コロナウイルス感染症に関する正しい知識を身に付けさせ、必要以上に感染を恐れることのないよう指導する。

<新型コロナウイルス感染症を正しく理解するための参考資料>

- 「新型コロナウイルス感染症の予防～子供たちが正しく理解し、実践できることを目指して～(文部科学省)」
- 「改訂『生きる力』を育む中学校保健教育の手引き(追補版)『感染症の予防～新型コロナウイルス感染症～』(文部科学省)」
- 「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!～負のスパイラルを断ち切るために～(動画)」(日本赤十字社)」



■具体的な対応の仕方について学ぶ

○具体的な場面を想定し自分の問題として考えさせ、自他の人権を尊重する行動について指導する。

(指導例)

- ・「学校を休んでいる〇〇さんは、せきをしていたから絶対コロナだよ。学校に来てほしくないね。」と声をかけられたとき…
 >せきをしていることだけで感染していると決めつけることは間違っていることや、「学校に来てほしくない」という言動はいじめにつながるため、学校を休んだ子の不安な気持ちを思いやって行動することの大切さを指導する。
- ・「近くの施設でクラスターが発生したと聞いたよ。〇〇さんのお母さんはその施設に勤めているから、〇〇さんには近寄らない方がいいね。」と声をかけられたとき…
 >感染症が発生した施設等につながるのある人を避けようとする差別的な言動は許されないことを指導する。
- ・「インターネットに〇〇校の〇年生で感染者が出たと投稿されていたよ。塾で〇〇校の子と一緒にいる子もいるから、みんなに拡散しようよ。」と、メールが送られてきたとき…
 >感染者の特定につながる内容を掲載・拡散することは人権侵害に当たり、不確かな情報やうわさ等を発信・拡散することが、偏見や差別、いじめを生む原因になることを指導する。

○感染症に係る不安や自分自身が辛い思いをしたときは、ひとりで悩まず、すぐに家族や学校の先生、友人など信頼できる人に相談したり、下記の相談窓口を利用したりするよう指導する。

- 24時間子供SOSダイヤル 0120-0-78310 ※電話相談を24時間受け付けます
- 教育相談ほほえみダイヤル 0120-745-070 ※月曜日から金曜日(9:30~16:15)
- 岐阜県教育委員会学校安全課教育相談係 058-271-3328 ※月曜日から金曜日(8:30~17:15)



■保護者や地域と連携を図る

- 学校での取組を家庭に伝え、感染症に関する差別や偏見、いじめの予防について家庭でも話題にして、家族で感染症に対する正しい理解のもと適切な行動ができるように促す。
- 児童生徒の些細な変化に気付き、悩み事がある場合は、学校や関係機関に相談するように伝える。

「人権という普遍的文化」を 築いていくために

— 「ひびきあい活動」を核とした継続的な取組の充実 —

優れた取組を継続している「人権文化あふれる学校賞」を受賞した園・学校の実践事例を紹介します。

可児市立瀬田幼稚園

◇身近な人との交流を通して、触れ合うことの心地よさを感じ、相手を大切にできる行動力を育てています。

○継続して取り組んでいること

- ・温かい人間関係をつくっていくために「あいさつ」を大切にしています。自分からあいさつができる子が増えています。
- ・「ハロウィンのお化け屋敷ごっこ」や「どんぐり転がしゲーム」等、小さな子が楽しめる遊びを自発的に考え、一緒に楽しんでいます。



○取組のすばらしさ

- ・異年齢児との交流を通して、思いやりの心が育っています。
- ・「ありがとう」や「うれしい」といった「あったかい言葉」について考え、言われてうれしい言葉をどんどん使っていくという行動力を高めています。

各務原市立鷺沼第一小学校

◇いじめ0（ゼロ）への取組を通して、あたたかい人間関係をつくりあげる行動力を育てています。

○継続して取り組んでいること

- ・全学級でいじめ0（ゼロ）を目指す内容を学級目標に盛り込んでいます。その目標に即して、児童が定期的に生活を振り返ることで、いじめを許さず自分の問題として捉える意識を高めています。
- ・各学級に「よいところ見つけ」などの人権教育に関わるコーナーを設けて、人権に対する関心を高めています。



○取組のすばらしさ

- ・児童一人一人が、日常的に先入観や偏見をもつことなく、相手のよさを素直に認め合える関係を築いています。

瑞浪市立日吉小学校

◇児童会の主体的な活動を通して、いかなる差別や偏見も許さず、差別をなくそうとする行動力を育てています。

○継続して取り組んでいること

- ・ひとりだち委員会を中心とした児童会活動の中で、異学年交流活動や「よさ見つけ」などを行い、年間を通じて人権感覚を高めています。
- ・朝活動の時間を活用して「ひとりだち人権集会」を定期的実施し、人権課題についての理解を深めるとともに、仲間を大切にする意識を高めています。



○取組のすばらしさ

- ・児童のアイデアをいかした主体的な活動を展開しています。主体的な活動が主体的な関わりを生み、仲間を大切にすることができる行動力を高めています。

下呂市立竹原中学校

◇仲間や地域との関わりを通して、互いを尊重し合い、相手を思いやって行動する力を高めています。

○継続して取り組んでいること

- ・コロナ禍でもできることを仲間とともに考え、地域のために主体的に活動したり、交流したりしています。
- ・様々な活動に一人一人が目標をもって取り組み、取組の中で見られる仲間のよさを積極的に認め合う中で、自己肯定感を高め、互いを尊重する仲間関係づくりを進めています。



○取組のすばらしさ

- ・生徒の主体性を大切にした活動や地域との交流が継続的に行われています。取組を通して、地域社会で共によりよく生きようとする意識を高めています。